

青変症が発生しにくい秋冬ダイコン遅播き作型向け 有望品種「No. 4854」

1 背景・目的

秋冬ダイコンの遅播き作型の慣行品種は青変症が発生しやすい「福誉」から発生しにくい「夏の守」へ移行しつつある。しかし、「夏の守」は、生育初期の低温で短根になりやすく、収穫が遅れると空洞などが発生しやすいことが課題となっている。

そこで、「夏の守」と同様、青変症が発生しにくく、同程度の外観品質を有し、根長が確保でき、在ほ性が優れる品種を検討する。

2 技術のポイント

(1) 検討した10品種のうち、「No.4854」は、収穫後に青変症が発生しやすいとされる20℃前後の温度で保存しても「夏の守」同様、青変症の発生が見られない(図、写真)。

(2) 「No.4854」は、「夏の守」と比較すると、根部の肥大や根重の揃いは同等であり、播種後74日目においても空洞が生じにくい(表)。

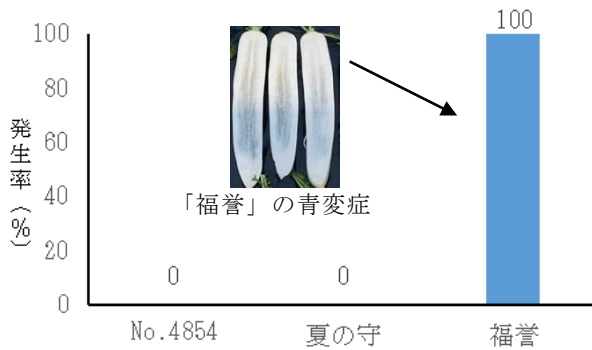


図 青変症発生率
収穫後、温度20℃で5日間処理後に調査



写真 左: No.4854の外観
右: 20℃で5日処理後の切断面

表 収穫時の生育状況

日付	品種名	根長 (cm)	根重		外観品質		内部品質	
			(g)	(CV,%)	横縞	尻づまり	す入り	空洞
10/31 (播種後61日目)	No.4854	33	1,010	11.6	0	83	0	0
	夏の守	35	1,236	7.8	0	92	0	0
11/13 (播種後74日目)	No.4854	36	1,545	12.1	0	90	0	0
	夏の守	39	1,764	17.7	0	67	0	17

注1) 10月31日は各品種20個体、11月13日は各品種10個体を調査

注2) 横縞、す入り、空洞の発生指数: 0(無)~3(甚)、尻づまり指数: 1(不良)~3(良)

程度 = $\Sigma(\text{指数} \times \text{個体数}) \div (\text{最大指数} \times \text{全調査個体数}) \times 100$

3 成果の活用と残された問題点

選抜1年目の結果であり、生育初期の気温が平年より低い環境での根長への影響の確認が必要